

# 社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 平成24年10月19日（金）第2校時  
場 所 南阿蘇村立長陽中学校  
年 組 阿蘇市立阿蘇中学校 2年1組  
男子16名・女子17名 計33名  
指導者 阿蘇市立阿蘇中学校 教諭 山部 公彦

## 1 単元名 「1 九州地方～環境問題と環境保全を中心とした考察～」

（教育出版 p 162～ p 163）

## 2 単元について

### (1) 単元観

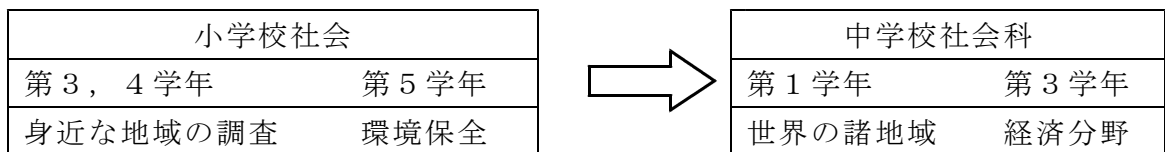
本単元は、学習指導要領において「日本の諸地域」の中の（エ）環境問題や環境保全を中核とした考察にあたる。特に、九州地方の学習を通して、地域の環境問題や環境保全の取組に関する特色ある地理的事象に着目し、それを中核として地域的特色をとらえさせることをねらいとしている。

九州地方は火山が多く、その恩恵を受けながらも時には厳しい自然災害にも見舞われる環境にある。この環境にありながらも農業や工業などを発展させ、自然との共存を図りながら特徴的な産業をつくりあげてきた。

生徒たちも阿蘇という大自然に囲まれて生活をしており、放牧の様子を見たり、農業体験学習を行うなど身近なところで阿蘇の農業について触れる機会が多い。しかし、農業の様々な取組が環境保全と関連していることや「阿蘇の循環型農業」などについて詳しく理解できていない。自然との共生や保全、生活の向上といった人々の暮らしを本単元の様々な視点から考え、表現することを通して、改めて「ふるさと」を見直し、地域的特色を学ぶことのできる単元である。

### (2) 系統観

本単元における系統は以下の通りである。



### (3) 生徒観

本学級の生徒は、明るく活発である。4月に2校が統合し、生徒たちも新たな学年、クラスメイトと共に新設校での学校生活を始めた。当初は人間関係にも緊張感があったが、少しずつ慣れ、班活動の中でもお互いの意見を出し合うことができ、積極的な学習ができるようになってきている。

社会科に関する生徒の実態（8月24日実施，32名回答）は、学級の半数以上の生徒が社会科や地理的分野を「好き」と回答し、教科についての苦手意識は低い。しかし、どちらでもない・嫌い（苦手）と答えた生徒は、「覚えることが多い」「資料を活用することが難しい」などつまずきを感じている面を具体的に回答している。自分の意見を発

表することについても苦手だと答えた生徒が多く、理由として、「自分の意見や答えに自信がない」が目立った。教科に対する高い関心を活かしながら、学習内容のねらいを明確にし、資料をもとに意見を発表できるような展開を進めていきたい。

本単元の内容に関する実態は以下の通りである。(32名回答)

九州の特産物について知っていることを答えなさい。(複数回答)			
-----			
・米 5名・野菜(トマト・すいかなど) 20名・記述なし 7名			
熊本や阿蘇の特産物についてその特色を答えなさい。(複数回答)			
-----			
・米 5名・野菜(トマト, なす, など) 20名・あか牛 5名・記述なし 2名			
阿蘇の中で残したい風景はありますか。    ある    25名    特にない    7名			
-----			
(回答)・美しい山々    ・夕やけなどの風景    ・緑の草原    など			
野焼きを知っていますか。    知っている    28名(説明可)    知らない    4名			
放牧を知っていますか。    知っている    20名(説明可)    知らない    11名			

九州地方の特産物について稲作や野菜づくりが盛んと答えた生徒が多く、特にトマトやすいかなど全国でも生産量が高いものを挙げた生徒が多かった。マンゴーや黒豚など各県の特産物について記述している生徒も見られた。熊本や阿蘇の特産物においても、稲作や野菜の回答が多かった。また、あか牛の回答もみられ、家業で畜産を行っている生徒が3名在籍していることもあり、阿蘇の畜産業についての知識をもっている生徒が数名いることが分かった。こうした実態から、九州地方の環境と産業の関わりや環境保全への取組、持続可能な社会を目指した活動についてなど九州の地域的特色をとらえさせる学習が重要であると考えた。

また、阿蘇で暮らす生徒たちにとって、野焼きや放牧について大まかなことは説明できるが、これらが環境保全と深く関わっていることや「循環型の持続可能な社会」という今後に必要な事象であるということの理解は不十分である。そこで、自分たちの住む地域のことを好きで、大切にしたい風景や自然があると実感しているからこそ、本単元の学習を通して、九州地方の環境保全を中核とした地域的特色を理解し、将来、自分たちに何ができるかを考え、未来を切り拓いていく力の育成を目指すことに意義があると考えた。

#### (4) 指導観

- ・資料を活用し、根拠をもって説明する学習活動を通して内容理解を進め、様々な人々の思いに共感し、自分の言葉で発表できるようにする。
- ・毎時間の基礎的・基本的事項をおさえる場面と自分の意見をもったり、班内での意見の練り上げを行ったりする、めりはりのある授業展開を行う。
- ・九州地方や自分たちの住む地域的特色を理解し、これから自分たちに出来ることや環境を保全していくための関わりについて考えさせたい。
- ・お互いの意見を尊重し、認め合う雰囲気づくりを行う。

### 3 単元の目標

関心・意欲・態度	九州地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえることができる。
思考力・判断力・表現力	九州地方の地域的特色を、環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。
技能	九州地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
知識・理解	九州地方について、環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けることができる。

### 4 単元の指導計画（6時間取り扱い）

過程	次	時	主な学習活動と身に付けさせたい能力や資質	評価
つかむ 予想する 確かめる	1	1	「多様な自然環境に恵まれた地域」 九州地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。	九州地方の位置と自然環境を調べ、構成する県の位置と名称を書くことができる。（ワークシート）【知・理】
	2	1	「さんご礁の海を守る」 さんご礁の白化現象と保護活動の例から、観光開発と環境保全の関係について考え、表現する。	さんご礁の環境破壊の要因を考察し、さんご礁の保全活動やエコツアーリズムなどを通して、それらの意義を考え、発表できる。（ワークシート） 【思考力・判断力・表現力】
	3	1	「火山とともに暮らす」 桜島の火山活動を例に、地域の人々の対応や利用について考える。	「九州地方の火山分布と各地のハザードマップ」から九州には火山が多く南北に連なって分布していることを読み取ることができる。 （ワークシート）【技能】
定着させる ふくらませる	4	1	「環境を守る循環型農業」 九州地方についての資料を読み取り、自然環境を生かした畜産業が盛んであることを理解する。	九州地方の畜産業は、自然環境を生かしていることを理解することができる。 （ワークシート）【知・理】
		1 本 時	「環境を守る循環型農業」 阿蘇の循環型農業について考え、これからの自分たちに来ることを表現する。	阿蘇の循環型農業がわかり、その農業を維持する手立てについて表現することができる。（ワークシート） 【思考力・判断力・表現力】
	5	1	「煤煙の街からエコタウンへ」 九州地方の工業生産の特色をとらえ、公害とその克服について考える。	北九州市の取り組みに興味を持ち、その努力の様子を紹介することができる。 （ワークシート）【関心・意欲・態度】

## 5 本時の学習

### (1) 本時の目標

阿蘇の畜産業と環境保全とのかかわりを理解し、これからの自分たちに出来ることを考え、表現することができる。

### (2) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	学習形態	教師の指導 (予想される生徒の反応)	教材・資料等	
導入	5分	1 鹿児島や阿蘇の畜産業など前時をふりかえる。 ・野焼き ・放牧 ・牧草の紹介	一斉	・鹿児島、阿蘇の畜産業についてその特徴をふりかえる。 ○それぞれのスライドは何を表していますか。 ・草原の新芽を出させる。 ・牛を草原で育てている。 ・牧草がロールになっている。	スライド 牧草	
展開	40分	2 本時の課題をつかむ。	一斉			
		阿蘇の循環型農業について考えよう。				
		3 阿蘇の循環型農業を図にあらわし、発表を行う。 (1) 個で考える。 (2) 班で話し合う。 (3) 発表する。	個 班 一斉	○循環型農業のつながりを考えよう。 ○他地域との違いにも注目しよう。 ・野焼き→放牧→など循環のつながりの図はどうやったらつながるかな・・・。 ・これで説明ができそうだ。	資料 ワークシート	
		4 循環型農業について話し合う。 (1) GTのインタビュー映像を見る。 (2) 草原が減少している現状やGTの思いを知り、これから自分たちに何ができるかを考える。 (3) 考えを発表する。	一斉 個 一斉	○GTから阿蘇の畜産業や草原の現状、若い世代への思いについて話を聞いてみよう。 ○阿蘇の循環型農業や環境保全のために自分に何ができるかを考えよう。  ○それぞれの考えを発表しよう。 ・環境保全の活動に関心を持っていきたい。 ・野焼きへの協力をしてみたい。 ・あか牛を食べていきたい。	映像 評価① ワークシート ワークシート	
まとめ	5分	5 教師の話聞く。	一斉	・阿蘇の畜産業の良さや課題、環境保全に向けて今後、私たち出来ることをおさえる。	映像	

### (3) 本時の評価

場面	評価基準
評価①	A：阿蘇の循環型農業の良さがわかり、自分にできる環境保全への取組について自分の立場を明確にして表現することができる。 (ワークシート) B：阿蘇の循環型農業の良さがわかり、自分にできる環境保全への取組について表現することができる。 (ワークシート)